

知ってる？

活用してる？

学校図書館！

今回は、「小中一貫した教育」等の校種間連携に係る取組を中心に、幼稚園・小中学校・高等学校の活動例を紹介します。



「人間尊重の教育」の推進につながる、**子どもが「育つ」取組**に  を示しています。

学校図書館の機能と役割 **読書センター**





活動の目標


- ・絵本等に親しみを感じ、自ら読みたい本を手にとることで読書習慣の基礎を身に付ける。
- ・絵本や物語の世界に浸り、遊びを通して表現することで、言葉に対する感覚を身に付けたり、想像する楽しさを味わったりする。

幼稚園 「絵本が育む豊かな想像力 ～絵本と出会う・読み聞かせ～」

活動例


- 1 読書センターとしての機能をもつ、幼稚園の「絵本の部屋」で、自分の読みたい絵本を手にとったり、借りたりする  ことを通して、絵本等に親しみを感じ、読書習慣の基礎を身に付ける .



- 2 担任の他、保護者ボランティアや、職業体験等で訪問してきた小・中学生をはじめ、様々な人による読み聞かせを体験する  ことで、多くの物語に触れ、場面を想像したり、物語の世界を楽しんだりする。
- 3 友達との遊びの中で、絵本の内容を再現しようとしたり、気に入ったフレーズやモチーフを様々な場面で用いたりすることで、友達と一緒に物語の世界に浸ることを楽しむ。

MEMO


- ・生活の中で自ら絵本を手に取り、じっくり見ることができ環境を整えることで、絵本への興味や関心が高まります。
- ・様々な人による読み聞かせを聞く機会を多く得られるようにすることで、子どもの読書体験がより豊かになります。
- ・絵本や物語を友達と一緒に見たり、聞いたりする読書の体験は、友達と同じ世界を共有する楽しさや心を通わせる機会となります。絵本の世界を通していろいろな言葉に出会い、豊かな表現や想像する楽しさを味わいます。
- ・幼児の読書の経験や興味が広がるように幼児の多様な興味や関心を捉えた選書が大切です。

「小中一貫した教育」を中心とした、校種間連携による、**つなげる活動**に  を示しています。

学校図書館の機能と役割 **情報センター**




活動の目標

- ・自分の考えを深めるために、必要な資料を学校図書館の本の中から収集する。
- ・9年間の学びを意識し、中学生の資料活用の仕方を学び、効果的な調べ方やまとめ方を考える .


小学6年生 国語科「やまなし」 「作品の世界を捉え、自分の考えを書こう ～中学生との交流を通したポスターづくり～」

活動例


- 1 「やまなし」を読んだ後、学校図書館で宮沢賢治の他の作品を読み、作者がそれぞれの作品に込めた思いについて、自分の考えをもつ。
- 2 中学生が学校図書館を活用して作成したレポートを見て、考えを深めるための資料の選び方や関連付け方、図書資料の活用の仕方について考え  学級で交流する。




小学生が国語の授業で読んで、図書資料の活用の仕方を学ぶことを想定して、中学生が目的意識・相手意識をもって作成したレポート。

- 【中学1年生「大人になれなかった弟たちに……」レポート】
- 3 中学生のレポートから学んだことを生かし、資料を選んだり、再度作品を読み直したりし、「やまなし」に対しての自分の考えをポスターに書く。
 - 4 最初の考えと完成したポスターを友達と読み合い、互いの考えの似ているところや納得したところについて交流する  今後、作品の世界をより深く味わうための読み方や図書資料の活用の仕方を振り返る。

MEMO

- ・近隣の中学校と連携する際には、ICTを活用することで、手軽に交流することができます .
- ・小学生のポスターを中学生に読んでもらい、評価をもらう活動を取り入れることもできます。双方向の活動とすることで、互いの意欲につながります。
- ・中学生が使用した図書を小学校の図書館に展示することで、中学校の学校図書館への興味につながります。

「小中一貫した教育」を中心とした、校種間連携による、**つなげる活動**に  を示しています。

「学ぶ力」の育成につながる、ICTの活用👤を示しています。

学校図書館の機能と役割 **読書センター**

活動の目標

- ・小学校と中学校の読書のつながりを考え、新入生が積極的に学校図書館を利用する機会が増えるようにする。
- ・児童書から一般書へ、発達の段階に応じた選書を行い、新入生の読書への意欲を高める。



中学校 図書委員会（図書局） 「図書館の扉は つながっているよ」

活動例

- 1 パートナー校の小学生に対してGoogle Formsを活用して図書委員作成の、「読書に関するアンケート」を実施する。👤併せて、小学校の図書委員会や図書担当の先生に貸出ランキング等の情報提供を依頼する手紙を書く。
- 2 アンケートの結果や、小学校の委員会や図書担当の先生から提供してもらった情報を基に、図書委員会で話し合って、主に小学校高学年の読書傾向を把握し、中学校の図書館の蔵書から、新入生におすすめの関連図書を選定する。🍎
- 3 小学生の中学校訪問の時期に合わせ、図書委員がおすすめ図書のPOPや新入生向けの「図書館だより特別号」を作成し👤て、館内に設置する。
- 4 中学校訪問の際、小学生が図書館も見学できるよう、案内ポスターを掲示する。



MEMO

- ・児童書から一般図書への移行を促し、小学生での読書習慣を、中学校進学後も継続させる目的の活動です。
- ・中学校に入学したら読んでみたい、中学校の図書館もおもしろそうという気持ちが進学の不安を解消する一助となります。

学校図書館の機能と役割 **学習センター**

活動の目標

- ・異なる時代に成立した随筆や小説、古典作品を読み比べ、共通点や相違点についてまとめる。
- ・作品の成立した時代背景や他の作品などとの関係を踏まえながら、自分のものの見方や感じ方、考え方を深める。



高校1年生 国語科【言語文化】 「文化のつながりと 表現の再構築」

活動例

- 1 近代文学の中でも、古典文学を土台にして創作された有名作品を読み深める。
- 2 和歌における「本歌取り」の効果について学び、古典が後世の作品に与える影響を理解する。
- 3 ギリシャ神話と日本書紀など、我が国の作品と外国の作品を比較し、作品に表れたものの見方や感じ方に対する共通点を考え、グループ交流する。
- 4 自分の興味や関心のある作品と、異なる時代に成立した他の作品を読み比べ、共通点や相違点をまとめて発表する。
- 5 古文、漢文、近現代の作品のうち、異なる二つの分野からそれぞれ一つずつ作品を選択する。🍎選択した2作品の共通点を分析し、作品のつながりについて考察したことを、小中学校で学んだ引用の仕方や出典の示し方に気を付けながら、👤ICTを活用してエッセイやプレゼンテーション等にまとめる。👤

MEMO

- ・関連性のある古典と近代文学作品を集め、生徒が題材を選択する際に利用できるように、学習時期に合わせて展示をすると効果的です。
【展示する作品・作家の例】
 - ・今昔物語集 ・御伽草子 ・宇治拾遺物語
 - ・芥川龍之介 ・太宰治 ・中島敦 等
- ・学校図書館の蔵書リストや札幌市図書館蔵書検索などを活用しながら様々な作品間のつながりを発展的に調査することができます。
- ・ポスターやプレゼンテーションなどでまとめ、発表することで、作品の解釈について新たな視点を獲得し、読書の幅が広がります。

こんな学校図書館が子どもの学ぶ意欲を高めます！

探せる・見付けられる学校図書館

【NDC(日本十進分類法)に基づいた書架整理と配架表示】

子どもの学ぶ意欲を高め、意欲を継続するためには、必要な時に自分で情報を探して見付けられるようにすることが大切です。小学校低学年から学校図書館を利用する経験を積むことで、大まかな配架を理解して、必要な資料や情報を収集する力が身に付いていきます。そうした学校図書館利用を支えるものの一つに「配架表示」があります。小学校では、分類番号だけでなく、どこにどのような本があるのかをイラスト等を活用して示します。一方、中学校や高等学校では、情報センター・学習センターとして機能するように、学校司書や図書局による、学習中の単元や学習課題に対応した特設コーナー等の設置・表示も効果的です。



小学校低学年でも、何の本があるのか分かるように分類名に読み仮名を付け、言葉が分からなくてもイラストで理解できるように工夫します。



中学校や高等学校では、レポート等の課題や学習に関連したコーナーを設置する工夫や、パスファインダーを用意することも有効です。



学校図書館を支える人 ～学校司書～

【主な業務内容は？】

授業支援、貸出・返却業務、書架整理、展示、蔵書管理、本の修理、選書、司書だよりの発行、委員会の支援等です。

【授業支援とは？】

教科の授業や、総合的な学習の時間、特別の教科 道徳等で必要に応じて本を準備したり、授業に参加して調べ学習時のレファレンスを行ったりします。学校図書館の資料だけで足りない場合は、中央図書館や地区図書館からの貸出や、寄託図書の出借等も手配します。

学校司書に業務内容や、授業支援についてインタビューしました。

【授業支援で大事にしていることは？】

先生方との日常のコミュニケーションです。まずは図書館に関心をもっていただき、授業の中で図書館ができることをお伝えしています。「タブレットを使うから…」とおっしゃる先生が増えてきたように思いますが、情報の正確性等のメリット・デメリットを踏まえて、図書の活用をお勧めしています。

【授業支援でやりがいを感じることは？】

日頃図書館利用の少ない生徒とも関わることができて嬉しいです。また、通常の貸出では活用される機会の少ない本も利用されるので、整備しておいてよかったと思います。



第5号では、学校図書館や図書資料を子どもの発達の段階に応じて学びに生かしている各校種の活動例を紹介しています。学校図書館の利活用の視点から、校種間連携を考えてみましょう。また、パートナー校間でできる小中一貫した取組例も紹介していますので、参考にしてください。なお、今号が最終号ですが、第1号～第5号で紹介した内容を、今後の学校図書館を活用した活動に役立ていきましょう。



＜編集・発行＞ 札幌市教育委員会 学校図書館活用リーフレット作成委員会

令和5年3月

作成委員

安部 史絵(平岸高台小学校)

目黒 麻衣(山の手小学校)

吉田 卓矢(指導主事)

佐藤 沙織(平岡中学校)

渡辺 智広(開成中等教育学校)

三浦 裕子(指導主事)